

「腸管出血性大腸菌感染症および溶血性尿毒症症候群由来糞便のメタゲノム解析」への協力のご依頼

国立感染症研究所（研究責任者：李 謙一）では、腸管出血性大腸菌等が起こす溶血性尿毒症症候群に関する研究を行っております。

①試料・情報の利用目的および利用方法

腸管出血性大腸菌等による溶血性尿毒症症候群は、日本国内で年間100例程度が報告されています。本研究では、患者様から得られた便中に特徴的な腸内細菌等を明らかにすることによって、より効果的な治療法や診断法を開発することが目的としています。国立感染症研究所では、溶血性尿毒症症候群または腸管出血性大腸菌感染症の方を対象として、自然に排便された便検体を提供していただき、国立感染症研究所および解析受託企業において腸内微生物の遺伝子解析を行い、腸内細菌等の分布について調べます。

②利用する試料・情報の項目

検査医療機関から提供された診断および治療経過、微生物検査結果、検体の情報（年齢、性別）。この研究では、個人が特定できないように、検体から個人情報 を削除するため、提供者の個人情報（プライバシー）は保護されます。

③利用するものの範囲

国立感染症研究所 細菌第一部：李 謙一

④情報の管理責任者

国立感染症研究所 細菌第一部：李 謙一

連絡先

国立感染症研究所

細菌第一部

李 謙一(り けんいち)

TEL: 03-5285-1111

FAX: 03-5285-1163

E-mail: leek(アットマーク)niid.go.jp

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/from-lab/471-bac1/10507-hus-metagenome.html>